

## 職場で感じること

教育次長 藤井 武雄

最近、佐渡市と友好関係にある中華人民共和国の陝西省洋県の2000人規模の小学校に訪問する機会がありました。地域的には牛を使って農耕する牧歌的な地区であります。子どもたちの見事な演舞や書道、絵画を私たちに披露してくれました。見学後、当地域の教育長や教育機関のリーダーとの懇談のなかで印象にのこる言葉がありました。「子どもたちの才能や感性を育てるために、低学年から『模写授業』に徹底して取り組んでいます。それは知識、技術、判断力などが乏しい子どもたちには模写が基礎、基本になります。そのなかから想像力や感性が育ちます。」極めて明快な答えでした。これまで日本の教育現場で大切にされてきた、本物に触れる・見る・聞く指導方法と似ていると思った次第であります。気恥ずかしい様子ながら子どもたちの眼は輝き、教育リーダーの熱き思いが印象に残る訪問でありました。

さて、佐渡市も市町村合併4年目になりました。各種事業の平準化及び地域の特性を考慮した施策を継続事業として合併を進めてきたわけです。しかし、行政の枘が大きくなり、旧市町村の良さより、新市全体からみたとき不都合さが目に付く状態もあります。少子高齢化が急激に進み財政規模が年々縮減される状況でどのような行政サービスを提供できるのか、教育分野においても眼の前にある課題は山積みであります。「学校統合」、「いじめ・不登校対策」、俗にいう「モンスターペアレンツ対策」等です。これらのことは一部の機関や当事者組織で解決できるものではありません。保護者、地域、学校、関係機関が連携して支援することが必須であります。

4月の異動で久しぶりの教育行政の現場にもどり4か月を過ぎようとしています。約10年ぶりですので、浦島太郎の感があり戸惑いの毎日が正直の気持ちでもあります。しかし、子どもたちや高齢者が郷土に誇りを持ち安心して「学べる・暮らせる」環境づくり対策が急務であることを肝に銘じているところであります。

## 年度途中の学校評価に向けて

下越教育事務所佐渡市担当指導主事 浜田 尚

第1回目の中学校区訪問が終了しました。各学校での真摯な取組に感謝申し上げます。第1回目の訪問では、特に教職員が取組の手応えを一層もてるように「『共有』『協働』を大切にしたい取組」として次の2点をパワーポイントや資料を使ってお願いいたしました。

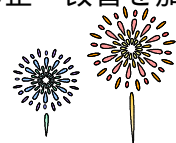
取組の効果の検討からより具体化した取組  
ミドルリーダーの役割を明確にして協働性を高める取組

そこで、第1回目を終えて、次のことについて各校で再確認をお願いいたします。

- ・前年度末の反省と改善が生かされているか。
- ・グランドデザインと整合しているか。
- ・成果目標と教育活動、運営活動は関連しているか。
- ・抽象的な表記等、具体性に欠けないか。
- ・客観的な評価を工夫しているか。

さて、1学期が終わろうとしています。夏休みから2学期初旬にかけて年度途中の評価がされる時期です。年度当初に計画した目標がどの程度、達成・実施されているかを把握してください。特に、とから取組の進捗状況を十分に把握し、**効果の検討**を加えて年度途中の工夫・改善を全教職員でお願いします。

また、今年度は各校からは上記に対応させて、ア)管理職の働きかけ、イ)ミドルリーダーの役割、を明記していただきました。この内容については、各校の校長先生のお考えのもとで進められるものです。ア)については、教職員一人一人のマネジメントについて理解を深めているか、使いこなしているか等、イ)については、ミドルリーダーの力量が高まっているか、力を発揮できる場を設定しているか等、といった観点から状況をとらえていただき、状況によっては修正・改善を加えていただきたいと思っております。



## 小さな情報でも積み重ねば...

下越教育事務所佐渡市担当指導員 原 功治

6月のいじめ根絶強調月間では、児童・生徒が中心となり、いじめ根絶に向けての取組を進めていただいたことと思います。

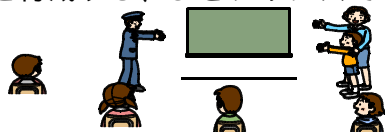
いじめ問題をはじめ問題行動や不登校児童・生徒を出さないためにも、未然防止の観点からの生徒指導が重要になります。各学校から提出された「学校訪問資料」や学校評価計画の中でも、ほとんどの学校が、児童・生徒から学習や生活についてアンケートをとることが計画されています。せっかく集めたアンケートですが、どのように活用しているのでしょうか。その時点での集計・評価・分析・公表だけになっていないのでしょうか。

特に生活面でのアンケートには、その時々児童・生徒の心の状態が表れます。この貴重な情報を集積し、個人内での変化を見ると、不安や心配、ストレスの蓄積度合が分かることがあります。「中1ギャップ解消に向けて」（平成19年2月、新潟県教育委員会）-中1ギャップ解消プログラム-冊子の26ページから活用例があります。参考にしてみてもいいでしょうか。

単にアンケートを実施すればよいというものでもありません。教師集団の観察で子どもたちの心の変化を早期に発見できれば最良です。様々な方法で心の変化を見取ることが重要です。1学期後半の内部評価で話題にしてみてもいいでしょうか。改善の糸口が見つけるヒントが得られるかもしれません。

ところで、各学校では、生徒指導部を中心にして夏期休業に向けて児童・生徒への指導事項の準備をしていることと思います。安全面からの事故防止（交通、水難等）や問題行動の未然防止の観点から、昨年までのものやこれから出る通知を参考に、地域の実態の応じて、きめ細やかな指導をお願いします。

長期休業は児童・生徒にとって自己指導能力（自らの行動や影響を考えることが出来る児童・生徒）を育成する、よきチャンスでもあります。



## 電話で！？それとも会って！？

管理主事 高野 榮

「子どもが学校に行きたがらない」「いじめられているようだ」「学校は何もしてくれない」こんな電話が、教育委員会にかかってくる場合があります。教育委員会で学校に問い合わせると、学校はいろいろと繰り返し指導しているのですが、その取組状況が家庭に伝わっていない場合があります。

忙しいからと電話で説明するよりは、直接会って話をすることが誠意が伝わります。表情を見ながら面談することで受け止めや思いを電話よりは、はっきりとつかむことができます。重要なことほど電話ではなく、直接会って伝えることが大事です。



## 「授業の達人」養成講座開講式

囑託指導主事 銅 郁夫

佐渡総合教育センターの「授業の達人」養成講座に5名の応募があり、6月14日(木)佐渡島開発総合センターで開講式が行われました。応募された先生は次のとおりです。

酒井理恵子先生(金井小学校)

- ・ 研修領域 特別支援教育
- ・ 指導者 銅指導主事  
鷲津佐渡養護学校長

安藤 剛先生(羽茂小学校)

- ・ 研修教科 算数
- ・ 指導者 原指導主事  
佐藤順子先生、野口幸雄先生、  
近藤浩子先生

(真野小学校 グループ研修)

- ・ 研修教科 算数
- ・ 指導者 浜田指導主事

本講座は、「自分で自分を鍛える研修」「受講者と指導者とが1対1の研修」「自分のやりたいことをやりたいように取り組む研修」「授業を通じた研修」を通して、「求められる教師」として成長してほしいとの願いが込められた講座です。

3学期には、研修の成果をまとめ、修了認定の式とともに全小中学校の先生方を対象に発表会を行います。